

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①進学重視型の単位制の学校として、教育課程（大選択科目等）、習熟度別・少人数制の授業形態、自らの考えを深めたり、周りと意見交換し合ったりする授業内容に満足している生徒が70%以上いる。	①生徒の実態に応じた教育課程の編成・運用を行い、BYOD端末の活用や幅広い学力を付けさせる授業の実践を行うとともに、55分授業を活かし、授業内での言語活動の充実を図る。	A	A	A	○習熟度別・少人数授業に満足している生徒の割合が90%を越えた。また、主体的に学習に取り組んでいるという生徒が、年次が高まるにつれて増加傾向にある。一方で、学習目標を明確にして取り組んでいる生徒は1・2年次で70%代にとどまっておらず、「確かな学力」の向上あわせて生徒の学習意欲を高められる活動が必要と考えられる。「授業第一」の理念が職員・生徒に浸透し、ICT・学習端末を効果的に活用した授業を各教員が工夫しながら取り組んでいる。 ○探究学習の中核となる「みらい学」については、地域や身近な生活の中での課題に対する探究活動を通して、生徒の80%以上が積極的に取り組んでいる。一方で、準備や評価など、教員の負担軽減については、引き続き課題となっている。 ○生徒会本部役員を中心として、学校行事に多くの生徒が主体的に特別活動に取り組む姿が見られた。特に8月の学校説明会では運営、発表で100名以上の生徒が関わった。また、部活動においても各種大会で継続しての入賞や上位リーグでの活躍などが見られた。次年度も引き続き、特別活動の充実に向けて態勢を整えていきたい。	○「大選択科目」は単位制ならではの取組で、学年を超えた交流も生み出している。他の活動にも良い影響があると考えられる。 ○みらい学に積極的に取り組む生徒が多いのはよい。同窓会として、生徒のニーズに合った講師が呼べるよう、協力したい。 ○生徒会活動や部活動で、生徒が積極的に活動している。自分たちで学校をよくする活動を考えるなど、生徒主体の活動ができてきている。
		②「みらい学」を中心としたEAST Projectに主体的に取り組んでいる生徒が70%以上いる。	②「エナジード」(2・3年次)や「キャリアナビ」(1年次)を中心とした課題解決型の探究活動を通して、成果を教科学習や学校行事、校外活動に活かし、また、進路意識向上への動機付けとなるよう、教科・分掌間の連携を図る。	A	A	A		
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	③授業を充実させるとともに、特別活動や部活動などの活性化を図る。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④生徒が授業中主体的に学習するよう授業改善し、「主体的に授業に取り組むことができた」と答える生徒が、70%以上いる。	④ICTを活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を行い、ペアやグループでの言語活動を通して、自分の意見を言葉で表現する力を養う。	A	A	A	○評価項目IIの2については、過去5年間(令和2～6年度)で少しずつ改善傾向が見られてきた。しかし、今年度は⑤の教員による自己評価が下がった。ただ、生徒による評価は77.6%であり、依然として目標数値の70%を越えており(目標数値を越えるとB)、職員の意識と生徒の意識の間に乖離が見られる。基本的に教職員の自己評価はどの項目においても厳しく、それとともに生徒に求める力も高くなる傾向があるので仕方ない部分もあるが、今以上に学習に対して意欲的に取り組んでいると感じる生徒の割合を増やしていかないと、この項目については改善していかないと思われる。 ○評価項目IIの3についてはここ3年改善傾向が見られていない。ただ、傾向としては⑥⑦ともに年次が上がるにつれて、向上している。特に⑥については、3年次は85.5%と高い数字が出ており、必ずしもこの左記の評価とは一致していない。また、授業以外での学習量についても、全年次とも6月と比較して11月に増加していることを踏まえると、定期考査前の検討会や各年次で行っている取組(やる気アッププロジェクトなど)の効果は、年次を追うことに着実に生徒へと浸透している。 ○今後の課題は低学年の進路指導(特に1年次)についてである。場合によっては、抜本的な改革も必要かもしれない。1年次での進路指導がしっかりすれば、年次が上がるにつれて自ずと向上するのは、ここ数年の統計データから出ているので、この課題改善は急務と言える。	
		⑤自分の学習目標を明確にして、学習に意欲的に取り組んでいる生徒が、70%以上いる。	⑤自分の能力ややりたいことを自覚させるために、探究活動や進路研究を積極的に活用し、生徒各々にとっての学習目標を明確にさせる。また、学習に対するPDCAサイクルについての細やかな指導を行うとともに、年次ごとに生徒の学習意欲を喚起するような企画を行う。	C	B	B		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥進路目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が70%以上いる。	⑥質・量ともに適切な課題を与え、トライ&エラーを繰り返すことで各自の学力の伸長を確認させる。また、昨年度以上に定期考査の作問段階で教員間で検討し、考査問題と授業内容がリンクしているかを科目内で共有し、調整する。	C	C	C		
		⑦学習量調査において、授業以外での学習時間が1時間30分以上の生徒が、70%以上いる。	⑦キャリア行事を通して、自らの進路に対し学習が必要であることを気づかせ、学習意欲を喚起する。また、スタディサプリなどの学習補助教材を活用することを奨励するとともに、教員側も課題配信などを適宜活用する。	C	C	C		
		4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧登下校時、自転車事故等に遇わないために交通ルールを遵守することを意識している生徒の割合が70%以上である。	⑧係職員と係生徒が中心となり、登下校時の交通指導や交通安全教室等を行うとともに、職員が積極的に指導に関わる。	C	A		A
			⑨校内美化に努めるとともに安全点検を毎月実施している。	⑨毎日の清掃で気付いたことを話題として、次回の清掃に生かせるように支援する。また、定期的な点検により安全な環境を維持する。	B	A		A
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑩良好な人間関係づくりを実行できている生徒が70%以上いる。	⑩いじめ早期発見に向け、生徒観察、校内巡視及び生活実態アンケート等を行う。また、生徒が悩み等を相談しやすい環境作りに努める。	A	A	A			
	⑪1日の平均遅刻者が全生徒の2%以下である。	⑪遅刻者記入カードを活用し、遅刻常習者には保護者と連携して、個別の指導・支援を行う。	A	A	A			
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫自身の健康管理に関心を持って生活する生徒が70%以上いる。	⑫季節や生徒の心身の状況に合わせて「保健だより」等を発行し、保健的行事や教育相談を計画的に実施することにより、生徒が健康管理の重要性に気付くようにする。	A	A	A		
		⑬担任と生徒の二者面談を年2回以上、保護者を加えた三者面談を年2回(1・2年次は1回)効果的に実施する。	⑬進路希望調査や模試結果など事後指導を通して、現状を生徒各々に正しく認識させ、主体的な進路選択に必要な材料を蓄積させる。また、保護者とも面談に臨むにあたり必要な進路情報を事前に共有しておく。	A	A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関わる情報提供が役に立っていると考えられる生徒が70%以上いる。	⑭生徒の希望進路に応じて、個別に進路情報を提供することに加えて、年次ごとの進路講演会や集会での連絡を年次と協力しながら効果的に実施する。	A	A	A	○ここ数年、教員による自己評価・生徒や保護者による外部アンケートともに高い達成度が続いている。特に前者だけでなく、後者でも高い評価を得ているということが大きい。今後は、保護者にも、現在の学校を取り巻く状況や全国的な進路動向に関する正しい知識を伝える方法を検討し、生徒がこれまで以上に自分の資質と進路希望について真剣に考えられる環境を整えていきたい。 ○次年度の課題としては、昨年度同様、生徒自身が主体的に進路について取り組む姿勢を伸ばしていくことであろう。自己評価によると、生徒の主体性についてはまだ改善の余地があると考えている教員が多い。探究活動など生徒が校外で活動する機会がここ数年少しずつ増加しており、次年度以降、改善の兆しが見られてくるのではないだろうか。こうした機会を通じて外部から刺激を受けることで、最終的にそれが学習意欲やキャリア形成まで波及することを期待している。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように努力をしている生徒が、70%以上いる。	⑮キャリア教育に関する行事の際に、事前事後の指導を徹底する。また、Touch the real worldのような、生徒の主体性を育成する行事を通して、生徒が自らの進路について「自分ごと」と考えられるようにしていく。	B	A		A
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯本校の教育活動や取組を保護者や地域の人々に理解してもらうために、学校のホームページを適時更新し、更新率が70%以上である。	⑯年度当初に今年度更新すべき行事等とその担当係を教職員と共有し、各行事が終了する毎に、最新の情報を提供する。また部活動の活動状況についても各部の最低限のホームページ更新回数を決め、適宜情報発信できるようにする。	D	C	C		
⑰各年次保護者会や保護者向け講演会等に参加したことがある保護者が70%以上いる。		⑰他の分掌や年次と協力し保護者にとって魅力的な内容及び参加しやすい環境になるように検討するとともに、開催内容等の周知を徹底する。	C	D	C			
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	⑱ICTを授業で活用するための環境を整え、技術面や活用方法の支援・情報提供などを必要な時期に適切に行う。	C	A	A	○外部のイベントでチャリティーダンスの演技を見て感心した。HP等の充実も大切だが、学校説明会で取り入れたように、生徒の活動を知ってもらうことが、学校の広報につながる。 ○保護者のニーズに合った内容・時期等の検討をすすめてほしい。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ICTを活用した通知に、生徒の70%以上が満足している。	⑲職員がICTを活用しやすいように環境整備に努め、利用にあたっての技術情報などを伝達する。	A	A		A
							○今年度は、校務支援システムのログイン方法が変わったことや、それに伴い、情報漏洩対策としてダウンロードデータの暗号化が必要になったことなどを、職員にわかりやすく周知する必要があった。また、保護者との連絡ツールが変更され、「スマート連絡帳」が新しく導入されたが、保護者への登録依頼、職員への操作方法説明なども必要となった。そして、新入生の学習用端末のBYOD化、電子採点システムの導入は、2年目を迎えた。いずれも、滞りや問題は無く導入・対応することができた。 ○次年度の課題は、昨年同様、情報漏洩やセキュリティ対策などの危機管理に注意した、更なる業務改善に努めることである。	○授業でICT機器が効果的に活用されるよう、生徒・職員のサポートをお願いしたい。 ○生徒・職員がICT機器を安全に使用できるように、対応をお願いしたい。